

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 128 回 何とかしようよ、この日本！

2005.12.18

12月9日は国連の「国際腐敗防止の日」。汚職などの防止活動に取り組む国際NGO「トランスペアレシー・インターナショナル」(本部ベルリン)の日本支部(東京)は、2005年の国内10大腐敗疑惑事件を発表した。

第一位は「相次ぐ官製談合」。旧日本道路公団発注の橋梁工事や成田空港の電気設備工事などで発覚、日本支部は事件の背景とされる天下りの規制を求めている。第二位以下は、「全国小売酒販組合中央会の不正支出」「経済産業省の裏金問題」「大阪市職員のお手盛り厚遇」「明治安田生命の保険金不払い」「中央青山監査法人の公認会計士逮捕」、そして最近の「耐震強度偽装事件」と続いている。思いたして頂いたか？何とも腐敗の一年だった。

日本人は古来より「物まね」がうまい民族といわれてきたが、これら各腐敗事件も、とりあえずの制度はあった。どこかの制度を参考にして、大義としての仕組みは見事に作り上げる。しかし実際は「ザル」でしかなく、そこには「心」が存在していない。形だけの制度や規則は、心^あ在らざる者にとって、破るのはいとも簡単なことである。これを「物まね」と言わずして、なんと云えばいいのだろうか。

制度はある、しかしそれが実質的に機能していないとしたら、形を作っただけの「ザル」と言わざるを得ない。

チェックすべき人がチェックせず、範たる者が自ら不正をする。社会的責任も倫理観も関係ない、自分だけが儲かればいい...そういう人種を昔は「金の亡者^{もうじゃ}」といていた。

教育者が小児^{わいせつ}に猥褻行為をする、塾の先生が生徒を殺害する、むしゃくしゃしたから子供を殺す。連日のようにこんな報道が新聞の紙面^{にぎ}を賑わし、「信じられない...」とため息を漏らす日々が続いている。

政治家の弁護士が人を騙し、会計士が監査を誤魔化し、建築士が不正偽装をする。親が子供の養育をサボタージュ、虐待を繰り返し、拳句の果ては殺してしまう。逆に中学生が親に文句を言われ、頭にきたから殺してしまう。もう、魍魎ちみ、もうりょう 魍魎、外道非道げどうひどうが横行し、まるで地獄絵の世界になってしまった。

「何とかしようよ、この日本！」

こう、叫びたくなるのは、小生一人ではあるまい。

来年こそはもう一度、「日本」と「日本人」そのものを見つめ直し、自分に問い質ただしていかなければならないだろう。

先祖が辿った軌跡・日本の歴史を原点に、風土・風習・慣習・価値観・倫理観等から培われた日本人の心を、取り戻すべき一年にしていかなければなら

いと思っている。人に対するいたわ 労りの心、社会に対する公正の心、弱者に対する

いづく 慈しみの心、道に対する徳の心、正悪を判断する審理の心、こんな心に思いつ

きり触れてみたい。そして、いのち 生命の大切さと家族の愛おしさ、与え合う楽しさ

と奪い合うみにく 醜さを、しっかり後輩に伝えていきたい。来年は、そんな一年になるよう、がんばる所存である。